

### 第三

2つめの理由は、「コミュニケーションをとることによってやさしい気持ちが生み出されるからだ。」  
その実例として学校のグループワークの時に1人1人が平等になるようにやることを振り分け、やりたかったらゆとりあいと言うように「だれもがイヤな気持ちにならないようにやっている」としてやさしい気持ちになった。

### 第四 まよめ

確かにたくさん言葉を使って相手に伝えるとわかりやすく誤解もされない。  
しかし「トランプが生きているのは、それが実際のプレイに使われている時である」という名言があるように、言葉に頼らない「コミュニケーション」もよいと思う。

### 第一 要約

月 日 曜日 ( )

桜の花は、日本民族のシンボルだ。花見とならんで、月見と雪見—この三つが日本人の自然観賞の基本になっているが、月・雪・花、そのいずれもがうっとりやすいものという共通点がある。「自然の有為転変をながめれば、人の生命のはかなさだけでなく、社会もつねに移り変わり、ゆくのだ」という気持ちが、日本人の心のどこかに絶えず潜んでいるのである。だいたい日本人は「見る」ということに重要な意味を与える。いふなれば「現場主義」であり、体験主義であり、実証主義である。さらにいえば、日本の社交の基本は「見る」ことで成立する。言葉ではなく、

「月がきれいですね」ということで、思いが伝わるように

10 社交が成り立つのだ。そう考えると、月見、花見、雪見といった集団的な観賞行為は、じつは日本文化のなかでのコミュニケーションの方法でもある。といかなければなるまい。西洋のようにしゃべることが社交の基本になっているところでは、話がとぎれるとなにか気まずい思いをしなければならぬ。日本人なら、だまってなにかをながめることでも、会話は進行しているのだ。

15 「言葉に頼らない日本的なコミュニケーションのとりかたはよい。」

### 第二

1つめの理由は「年齢性別にかかわらず、同じ物を見て同じことを理解しあえるからだ。」その実例として学校の音楽は私のおばあちゃんが子供の時に歌った曲は私の母も歌ったことだったり、私の母が歌っていた「ライバード」  
20 という合唱曲を私が知っていたということがよくあった。これは日本人だからわかることだと思う。